

# #6

## みんなで守る「トウキョウサンショウウオ」の未来

東大和市役所市民環境部  
環境対策課環境公害係長

全国ホタル保存会  
トウキョウサンショウウオ  
飼育指導員

### 吉樹さん(34) 前原 恵二さん(93)

「前原さんのプロフィールを教えてください。」  
前原「昭和6年生まれの93歳です。武蔵野美術大学の職員として平成4年まで勤務し、退職後に東大和市役所から声が掛かり、ホタルの保全活動が始まりました。広島県の山の中で生まれ育ったため幼少期からホタルは身近な存在でした。昭和43年にたまたまラジオで「武蔵野市でホタルが発見された」というニュースを聞き、東京でのホタルは珍しいと思ったことから、ホタルの研究を始め、今でも続けています。これは偶然なのですが、私がホタルの研究を始めた年に「全国ホタル研究会」が発足したので、すぐに入会しました。初代会長である南喜市郎(みなみきいちろう)さんの影響は大きく、彼の著書を図書館で一週間かけて書き写すなど、生態を調べるところからスタートし研究に没頭していきました。同じく全国ホタル研究会の会員であった東村山市役所の職員の方と意気投合し、様々な場所でホタルの保全活動を行っていたことで、平成4年に東大和市役所からホタルの相談をきっかけに東大和市との関わり合いが始まりました。」

「トウキョウサンショウウオの保全活動のきっかけを教えてください。」  
前原「トウキョウサンショウウオの保全活動は平成5年に始まり始めました。市内のある場所です。ザリガニ捕りをしていただいた方が、トウキョウサンショウウオの卵を卵だと気付かず道路に投げかけていたようで、その様子を見た近所の方が市役所に連絡し、調べたところトウキョウサンショウウオの卵だということが発見されました。そこでホタルの保全活動です。つながりのあつた私のところへ相談がありました。ホタルと同様に生態を調べることから始めました。トウキョウサンショウウオは私が生まれた昭和6年に東京府西多摩郡多西村(現在のあきる野市草花)で発見されました。環境庁が出版する日本版レッドデータブックに「絶滅が心配される個体群」として報告された当初は東村山市廻田町を東限の生息地として確認していましたが、現在は東大和市が東限の生息地となっています。サンショウウオと聞くと皆さん「オオサンショウウオ」のようなサイズを

想像しますが、トウキョウサンショウウオは成体でも12センチほどの小型のサンショウウオで、とても可愛らしい両生類です。」  
「保全活動で重要な点をお聞かせください。」  
前原「オオサンショウウオが生息するために、雑木林に囲まれた水辺環境が必要なんです。一年中枯れることのない水の流れる必要があるので、湧水が出る今の放流地をこれからも守っていかないとダメです。保全行政としても取り組まなければなりません。」  
「これまでの苦労や、やりがいをお聞かせください。」  
前原「苦労したのはエサです。大学の先生に聞いても、図書館調べてもわからなかった。研究を重ねていくと、動くものを食べていることがわかり、ペットショップでイイトミミズを買ってきて与えようと食べてくれました。が、水槽にイトミミズをそのまま入れてしまうとサンショウウオがイトミミズをなかなか捕まえないので、イトミミズを金網に入れて水槽に投入し、金網の穴から抜け出さずとるところを食出させることで何とか解決しました。何事も試



### 前原恵二 × 東大和市 × 第9小学校

「育てながら勉強する。育てたことは思い出として一生心に残る。」  
行錯誤しながら答えをみつけてきたので、それが苦勞でもあり、やりがいだと思っています。」  
「第9小学校の生徒さんとはどのような活動を行っていますか。」  
前原「9小の子もたちは夏の放流に向けて陸で生活ができるようになるまでの期間、学校内でトウキョウサンショウウオを育ててくれています。オスは孵化後25日ほどで後ろ足が出てきます。50日ほどでエラが縮みはじめ順調に成長すると100日を超え最初のころに変態(エラが取れて肺呼吸に変わる)し、水中の生活から陸上生活に移ります。放流までが子どもたちの役割になります。きれいな水槽を保つために、くみ置いた水をこまめに交換するなど、手分けをして心を込めて育てています。手を掛けて育てた経験は思い出として一生心に残ります。そして毎年、育てた生徒さんが書いた感想文が一冊の本になって私のもとに届きます。宝物ですよ。」

「環境対策課と先生が4人でトウキョウサンショウウオの飼育を担当し、その後9小に赴任されたことで、10年取組を継続しています。先生方もそうですが、トウキョウサンショウウオを知っている方たちはとても協力的に保全活動に取り組んでくれています。絶滅危惧種に指定されている「トウキョウサンショウウオ」という名前が子どもたちの記憶に残ることはとても重要です。そして、小さな命をつなぎ守っていくことは未来を担う子どもたちにとっても貴重な経験になると思います。今後、9小と7小が統廃合となるときは引き続き引き継ぎ保全活動に協力していきます。」

「今後の展望をお聞かせください。」  
前原「環境対策課の境さんは若いのに非常に良くトウキョウサンショウウオのことを理解しています。環境対策課とは30年以上もお付き合いが続いており、自分引き継ぐ際に「自分がこの仕事をできるだけ」  
「つなぐときは誰かに引き継ぐことはしません。」  
生き物を育てる人は生き物が好きな人ではないと困るし、誰かに言われてやる人には任せたくありません。小さな命です。育てていると愛着が出てきて、寝ては心配になって目の覚めてしまったりするほどの愛情をもって育てています。ペットを育てる感覚ではダメなんです。心から好きにならないうつ、生きてる間は頑張りたいです。」  
「展望というよりも課題になってしまっていますが、前原さんが高齢であること、そして代替りのいない人材であるため保全活動を引き継いで後継者問題に大きな課題を残してしまっています。そのためトウキョウサンショウウオのことをもっとたくさんの方に知ってもらい、関心を持ってほしいと思う反面、認知度が上がって小さな生き物であるトウキョウサンショウウオを保護しようという可能性もあっても、逆に守れなくなってしまう可能性もあっています。今はほどよく守っていくというのが現状ですね。」